

ベストピア Bestopia

ベストピアは月刊
個人誌です。
発行者 小原靖夫

2012年9月号
第307号

1. 抱かれて在る喜び (1)

異常な猛暑が終わり秋に変わる時が来ましたが虫の声がいつもと違います。年末にかけて平安であって欲しいと願います。

日本の政治は混乱を装いながら、ある方向に確実に歩んでいるように感じます。

我が家は山の中、夕べには足の冷えが堪えます夜空に輝く星を見ながら少し自分自身を見つめてみます。相応しい準備のために。

(1) 日曜日から始まるカレンダー

自由人になって9ヶ月が過ぎ、やっと、やりたかった事、正確にはやるべき事に、手が付き始めました。私は職業会計人であった時にも、やりたい事をやりたい時にやりたいようにやってきました。正確には45歳から70歳迄大胆にさせていただきました。何ひとつ悔いる事はありません。然し、やらねばならない事をきっちりとしてきませんでした。その事が何時も気に掛かっていました。この意味で、私がモットーとする「今、ここ」を生きていたとは言えませんでした。

職業会計人としての私のカレンダーは、月曜日に始まり日曜日に終わるものでした。日曜日は本来「主日」であり、創造主なる神の前に出て、罪を告白し、悔い改め、赦されて、「我誰を遣わさん。誰か我のために出ていくか？」との神の呼びかけに「私がここにおります。私をお遣わしてください」と応えて再びこの世へ出て行く、週の最初の日なのです。この応答は主日の礼拝においてなされます。

言い訳のもう一つの方法は、「職業を召命として、職業を通して神の栄光を現す」と言う理論です。ルターに始まりカルバンにより明確化されピューリタンによって確立した考え方です。勤勉、質素、実直、時間を大切にす、約束を果たす事によって召命に応えると言う方法です。これは行過ぎますと、現代のような複雑な時代では、精神なき専門人を作り出します。

それを防止する為に、週5日制になったのです。土曜日は肉体的な安息日、日曜日は魂が「新しくされる安息日—神の慈愛を感謝して安堵する日)が週休5日制の本来のあるべき姿です。

このような原則を分かっているながらそれを実行しないということは、知らずして実行しない事より罪深い(神の方向に背く)事です。だからせめて月一度は教会で礼拝をすることを心がけていたが、この世のことや、自分中心の欲求を優先している事には、何時も後ろめたさがありました。

日曜日が最後に来るカレンダーは土曜と日曜を週末と呼び肉体的安息と魂の清浄にあてます。然し、サラリーマンではありませんでしたので週末は平日の積み残した仕事の処理日に当てられます。又、仕事の約束が入りますと、それを果たすために週末を利用します。このように人との約束は果たして神との約束は果たさずとも神は赦してくれていると自分の都合のよい解釈と言いつてきました。ましてや、自分のやりたい事は最優先になり、主日を無視して旅に出ます。いささか後ろめたさが募ってくると旅先の教会で礼拝に出ることもありました。(このことはとても良い経験になっています。この世が醜い争いに満ちていても、世界の各地で主日が守られ、誰でも分け隔てなく神の前に立てる実感は味わってきました)

言い訳のもう一つの方法は、「職業を召命として、職業を通して神の栄光を現す」と言う理論です。ルターに始まりカルバンにより明確化されピューリタンによって確立した考え方です。勤勉、質素、実直、時間を大切にす、約束を果たす事によって召命に応えて救いの確信を得ると言う方法です。これは行過ぎますと、現代のような複雑な時代では、職業が細分化され過ぎ「精神なき専門人」を作り出します。それを防止する為に、週5日制になったのです。土曜日は肉体的な安息日、日曜日神の前で魂が新たにされる日、神の慈愛を感謝して安堵する日)が週休5日制の本来のあるべき姿です。

このような原則を分かっているながらそれを実行しないということは、知らずして実行しない事より罪深い(神の方向に背く)事です。だからせめて月一度は教会で礼拝をすることを心がけていました。

(2) 完全引退の本当の理由

この世的には最も恵まれていると世間に知られていた60代前半は精神的な試練に数々遭遇し、礼拝に出ていない自分の神への不忠実さを深く感じていましたので充実感のない時代が過ぎました。その頃から真剣に後継者を求めました。人材は育っていましたが、簡単に事は運ぶと過信していたところがあります。最も厳しく訓練をし最も信頼をしていた浅沼義弘兄に先ず話しました。断られました。次に20歳から育て上げた千田和弘兄に話をしました。断られました。次に既に独立をしている柏木光二兄に話しました。断られました。次に地元で若く将来有望と思っていた青年に話しました。断られました。おそらく、誰も私がそんなに簡単に、あっさりと身を引くとは考えなかったでしょう。適当な院政を引くであろうと考えるのが自然であったと思います。私の欲望がそう簡単には収まる筈はないと読まれていました。この段階で、再び、生涯現役が頭をもたげてきましたが、体力と知力の衰えは隠す事はできません。礼拝のことも頭から離れません。然し、これほどに断られますと、又断られるのではないかと恐怖心が先立ちます。頼むと喜んで引き受けてくれる同業の先生は数人いたのですが、断られると制止難い情報が世に流れる危険性も恐ろしく、結局は良く知っている業者に相談、依頼して、信頼できる方を紹介してもらった訳です。それが65歳を過ぎた10月でした。電撃的に10日で契約しました。これで70歳引退に目途がつけましたが、誠に辛い5年間でした。この辛さこそ神さまの声だと感じました。いい決断をしたとは褒めて頂いたとは感じることはありませんでした。裏切るものが一杯あったからです。この5年間の間に南足柄市の監査委員に任命され、これが誠に楽しい仕事で、新しい市長さんからもう一期と依頼された時は、心が動きました。職業会計人を辞めてしまうと私に出来ることはありません。

利用価値が零の人間になります。社会への窓を一つ位持っていた方がいいのではないかと誘惑の聲に悩みました。真剣に祈りました。何時もそうなのですが、神さまから聞こえてくる声は、「お前が好きにするがよい。何時もわたしは、お前のそばにいる」です。「神さまそんなことを仰らないで、はっきり決めてくださいよ」と言いたいです。南足柄市からの依頼をお断りしたところから私の決断が揺るぎないものになり始めました。それ迄は廃業の在り方について迷っていました。時代が読めない時に一番大切な事は職業を持っているということです。この事を私はことあるごとに若い人に伝えてきました。ハイパーインフレになればごく一部の人以外は、その日の食べ物も手に入らなくなります。年金生活者は全て生活保護者になります。私も例外ではありません。餓えと渇きの試練の時代になります。その事を十二分に承知の上で完全な廃業を決めました。その事によって完全な自由人になりました。為さねばならないことを自由になす事ができるようになったのです。「振り返ってはならない」旧約聖書の物語では度々出てくる教えです。振り返れない仕組みをつくる努力が必要です。仕組みは作ったのですが、それを軌道に乗せるのに10ヶ月近くかかりました。その完成(始まり)ともいべき記念の礼拝と信仰に導いて頂いた恩師滝沢陽一先生を囲む愛餐会が9月30日にあります。その準備の役割を果たしながら、9月は2週に渡って九州で仕事をしました。現役時代の後始末です。道義的責任は消えません。これで職業会計人時代の責任は全てやり遂げたとの達成感を味わいました。新しい出発に相応しい仕事であった事を感謝しています。来月からは、最もやりたかった事、且つ、やらねばならない事に専念できます。週の初めに神の前に立つ=礼拝から始まる生活ができます。と言って宣言するや否や10月7日は既に出席を約束した結婚式があります。この約束は7月からの話で随分悩みました。最終日まで祈ります。祝福を共に授かれる道があると信じます。

(3) 「裏切りと救い」の人生脚本

記念すべき特別礼拝の準備をしながら、自分の人生脚本に直面しています。50代で真剣に研究した心理学TAの最も深い人間の根っこのところ、変えようとしても、変えることが困難な生活態度、考え方、TAではこの人生脚本を演じ続けると良い人生にはならない。これを書き換えなければならないと警告します。暗い学問として敬遠されています。私はある程度の書き換えに成功しましたので、人生は恵みに満ちた、護られた日々でした。護りを数えることは到底出来ません。ある時、名田氏と言う靈感豊かな方が「小原さんのために、天上ではあなたのために、天使があなたの救いの為に、非常に忙しく駆け巡っておられます」と言われました。この言葉はどれ程わたしの人生が護られたものかを適切に表しています。今、ヨハネ黙示録を学びながらその言葉の重さを感じているところです。

わたしが聖書に出会ったのは高校2年の後半でした。礼拝の意味、本質を教わったのは大学の時、滝沢陽一先生からでした。信仰と職業、宗教と経済、罪と人生脚本等について、いつも考え続けてきました。私自身の事を分析しながら次号から2回にわたって記したいと思えます。きっちりとした「死への準備」をめざしています。救いに満ちた新しいTA-交流分析の手法に到達するかもしれません。

今回を含めて、底流に流れる言葉は「抱かれて在る」歓びです。新しい人生脚本の主題にしたいと考えています。

この言葉は、ベートーヴェンの第九の秀れた研究者藤井義正さんのことばです。12月の第九のシーズンには藤井さんから学んだ素晴らしいメッセージをご紹介すべく学びを深めています。

今日も藤井さんから応援メッセージを頂いたところです。

非常に忙しく時間が足りません。今まで秘書にやって頂いたことを自分で全てやっています。

他人の助けの大きさを感じます。

2. 使用済核燃料の恐怖

9月22日東京電力福島第一原発3号機の原子炉建屋のがれき撤去作業中に、鉄骨（長さ7m、重さ約470kg）を使用済核燃料プールに落下の事故がありました。使用済核燃料については1年前からベストピアでは取り上げてきましたが、最近かなり知られるようになり、高レベル放射性廃棄物についてもしばしば新聞に取り上げられています。

「原発ゼロ」についても賛否両論で政府は閣議決定すらできませんでした。反対論はエネルギー問題、エネルギーが確保できず、経済が成り立たないという視点です。私は地球の滅亡の危機の視点で反対しています。日本のどこかでもう一度「フクシマ」が起これば大変なことになります。リスクは地震、津波ばかりでなく、人為的操作ミス、管理ミスそしてテロ行為もあります。ドイツ、オーストリアは原発ゼロになっていますが、フランスの原発で事故が起きるとヨーロッパは大変です。ロシアでは1986年のチェルノブイリ事故によって急激な人口減少が起きています。1957年9月ロシアのマ・ヤークの原発事故、同年10月のイギリスのセラフィールドの原発事故の影響は未だに終わっていません。ウランが現役で活動している時より、引退して使用済になったらもっと危険でこれを再処理すると兵器以上の危険性が大きくなる。今のところこれらを小さくする事ができません。使用済核燃料は増えるばかりです。日本各地の原発にあるプールの管理ミス、例えば福島第一原発4号機のプールに事故が起きたら東京も危険と言われています。エネルギーを確保するために国が滅亡することになって国民が幸せになるはずがないのです。日本の人口の減少は止まっていません。経済規模は小さくなって当たり前です。深夜営業の禁止、商店の一斉休業日、正月の連続休業等少し昔の生活に戻れば今以上の電力の節約はできます。原発を廃止しても廃炉にするには50年かかります。廃炉に向かった技術革新と雇用の増加は可能です。国の方針が定まらないために混乱が続いていきます。